

気候情報

2005年6月の日本の天候

記録的な高温と少雨（西日本）

6月の天気概況

梅雨前線は本州南岸から日本の南海上に位置することが多く、南西諸島を除く地方の梅雨入りは平年に比べ遅かった。特に、北陸地方と東北北部では平年に比べ2週間以上遅かった。また、オホーツク海高気圧や移動性高気圧縁辺からの冷たい北東気流の影響は一時的で、北・東日本太平洋側の沿岸部を中心に気温の低い日がある程度だった。このため、北・東・西日本では晴れて気温の高い日が多く、西日本を中心に記録的な少雨となった。一方、梅雨前線が停滞することが多かった南西諸島では中旬以降大雨の日が続き記録的な多雨となり、下旬後半に活発な梅雨前線のかかった北陸地方や東北南部でも大雨となった。

上旬：初め本州南岸に前線が停滞し、東・西日本太平洋側や南西諸島で雨となった。その後、上空の寒気の影響で各地で雷雨となった。また、南西諸島は前線の影響で曇りや雨となった。上旬後半は、日本付近は移動性高気圧に広く覆われ晴れて暑い日が多かった。上旬末には台風第4号の北上に伴って前線が北上し、東シナ海から進んできた低気圧の影響もあって、10日頃には関東甲信地方と九州北部地方で梅雨入りした。旬平均気温は、西日本で高く、その他の地方は平年並だった。旬降水量は、全国で少なかった。旬日照時間は、西日本で多く、その他の地方は平年並だった。

中旬：初め低気圧の通過により全国的に雨となり、11日頃には九州南部、四国、中国、近畿、東海地方で梅雨入りした。その後、梅雨前線は日本の南に位置することが多く、旬後半に梅雨前線の影響を受け曇りや雨となった太平洋側の沿岸部を除き、高気圧に覆われ晴れる日が多かった。東北南部では梅雨前線が北上した15日頃に梅雨入りした。また、南西諸島では11日に晴れた後は、活発な梅雨前線の影響で曇りや雨の日が続き、記録的な大雨となった。旬平均気温は、南西諸島で低く、その他の地方は高かった。旬降水量は、南西諸島で平年の5倍と多く、北日本日本海側で平年並だったが、その他の地方は少なかった。旬日照時間は、南西諸島で少なかったが、北・東日本では平年並で、西日本では多かった。

下旬：初め本州南岸から日本の南海上に停滞した梅雨前線の影響で、東・西日本太平洋側では沿岸部を中心に雨となったが、そのほかの地方では晴れて気温の高い所が多かった。中頃は梅雨前線が南海上に南下し、東・西日本を中心に晴れて気温の高い所が多かった。その後、活発な梅雨前線が朝鮮半島付近から日本付近のび、東北地方と東・西日本の日本海側を中心に大雨となった。また、梅雨前線の影響を受けない各地は晴れて記録的な暑さとなる日があった。なお、27日頃には沖縄地方と奄美諸島で梅雨明けし、北陸地方と東北南部で平年より2週間以上遅く梅雨入りした。旬平均気温は、北・東・西日本で高く、南西諸島で平年並だった。旬降水量は、北日本太平洋側と西日本で少なく、北日本日本海側と東日本太平洋側で平年並で、東

日本日本海側と南西諸島で多かった。旬日照時間は、北・東・西日本で多く、南西諸島で少なかった。

6月の気候統計

平均気温：月平均気温は、南西諸島では平年並だったが、北日本で高く、東日本と西日本ではかなり高かった。北日本から西日本の所々で平年を2℃以上上回り、京都、広島、岡山、高松、福岡など38地点で6月の月平均気温の最高値を更新したほか、9地点でタイ記録となった。

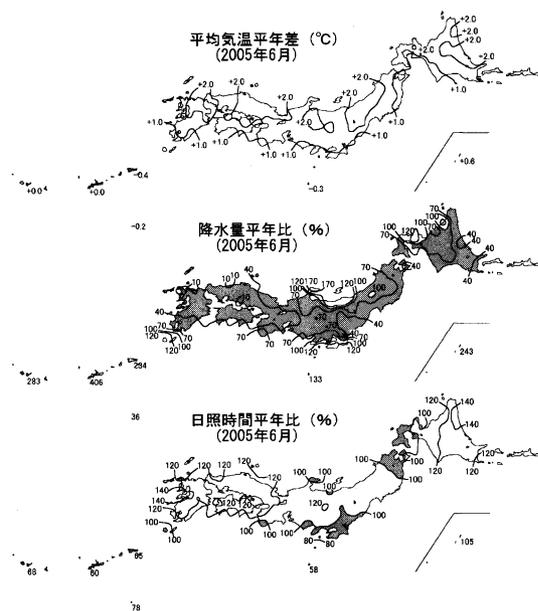
降水量：月降水量は、北日本から東日本にかけての日本海側では平年並だったが、東日本の太平洋側では少なく、北日本の太平洋側と西日本ではかなり少なかった。宇都宮（栃木県）、津（三重県）、岡山、高松、徳島、福岡など29地点で6月の月降水量の最小値を更新した。一方、南西諸島ではかなり多く、沖永良部（鹿児島県）、那覇、名護、西表島（以上、沖縄県）では6月の月降水量の最大値を更新した。

日照時間：月間日照時間は、東日本では平年並だったが、北日本と西日本では多く、特に、北海道と九州地方の一部では、平年の140%以上となった。一方、南西諸島ではかなり少なく、全ての地点で平年の80%未満となった。（気象庁観測部統計室）

6月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温の高い方から(℃)
松本 22.0 京都 24.6 鳥取 23.7 広島 24.5
高松 25.2 福岡 24.8 など38地点
- ・月降水量の多い方から(mm)
沖永良部 723.5 那覇 860.5 など4地点
- ・月降水量の少ない方から(mm)
宇都宮 45.5 岡山 24.0 高松 22.0
徳島 41.5 福岡 15.0 など29地点

2005年6月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す